

2011年度第3回執行理事会議事録

期 日：2011年9月8日（木） 11:00～13:30

場 所：中央ビル 会議室（水戸市泉町）

出席者：宮下会長 渡部副会長 久田副会長 藤本常務理事 齋藤副常務理事 石渡
小嶋 坂口 内藤 中井 藤林 星 向山 山口 各理事，竹内議長，榊原
副議長 ，（事務局）橋辺

欠席者（委任状提出あり）：井龍 高木 西 平田

*定足数（12，委任状含む）に対し，出席者14名，委任状4名，合計18名の出席。

*前回議事録の承認

I 審議事項

1. 総会運営について

とくに，役員，代議員の改選があった年の定時総会の運営については，以下のように行い，そのための規則類は12月の理事会で決める。

1)定時総会は，旧代議員，役員で行う，2)選挙結果報告後の途中休憩の際に第1回理事会を行う，

3)定時総会後半を行う。

2. 寄付取扱規則の策定について

大筋でこの方針を理事会に提案する。第2条1項(1)のまたは，の後に「募金活動によらず」を追加。3条の，寄付の受け入れと辞退の条文は，別のものとして分ける。

3. 野外調査安全指針の策定について

指針案について検討し，以下の点を修正することとした。

1項6) 記載する→記載し，学会事務局に提出する。

3項7)（中学校校庭対象）を削除→（高さ1mにおける数値）

付記の冒頭 「年会における見学旅行の」→「学術大会，支部等における見学旅行の」

なお，大会見学旅行の「見学旅行実施に関する申し合わせ」にも，本指針の1項1)-6)を追加することにしたい。

4. 放射能測定，放射能汚染・除染対策研究委員会設置申請について（環境地質部会）提案については，理事会で議論する。

5. 東レ科学技術研究助成候補者推薦の応募について資料回覧】

平野直人会員（東北大学）の推薦を承認した。

6. 国際賞 Moore 教授からの賞金の寄付申し入れについて

震災関係の研究に対し，国際賞の賞金10万円を寄付したいとの申し入れがあり，

寄付取扱規則(理事会で策定承認予定)に基づいて、ご厚志を受けることとした。

7. 理事会審議事項等の確認, 理事からの議案提案, 議事進行など
報告事項, 審議事項を確認した。

II 報告事項

(1) 運営財政部会：総務委員会

<共催・後援依頼, 他団体の募集等>

1. ゼオライト学会より, 「ZMPC2012 International Symposium on Zeolites and Microporous Crystals」(2012/7/28-8/1, 広島)の協賛依頼があり, 承諾した。
金銭援助なし。
2. 21世紀の地学教育を考えるフォーラム実行委員会より「第12回子供のためのジオ・カーニバル」同企画委員会主催(11/5-6, 大阪市立科学館)の後援名義使用依頼にたいし, 例年のとおり承諾した。
3. 野尻湖発掘50周年記念式典およびシンポジウム(10/1-2, 信濃町総合会館)の後援依頼に対し承諾した。
4. 第2回日本ジオパーク洞爺湖有珠山大会(9/29-10/1, 洞爺湖文化センター)の後援を承諾した。

<外部の賞>

1. 山田科学振興財団(8/1より公益法人)より2012年度研究援助候補者の推薦依頼:地質学会からは3件(〆切10/1-2/29, 学会〆切1/31)→HP, geo-flash, News誌に掲載
・2011年度の推薦応募2件については残念ながら採択されなかった。
2. 大学女性協会より, 第14回守田科学研究奨励賞受賞候補者の募集案内(〆切11/30)→HP, geo-flash, News誌に掲載

<その他>

1. 震災によるGPS波浪計, 沿岸部の潮位観測施設の故障に対し, 早期復旧の要望をし, 国土交通大臣, 国土地理院長, 気象庁長官に対し「観測施設復旧に関する要望書」を提出した。→HP, geo-flashに掲載
2. 東大大気海洋研究所国際沿岸海洋研究センター共同利用の追加募集案内→HP, geo-flashに掲載
3. 学術会議より, 東日本大震災にかかわる活動の調査(9/27締切り)がきた。
4. 石灰石鉱業協会の新会長として関根福一氏(住友大阪セメント)の就任挨拶。

<会員>

1. 今月の入会者(9名)→
正会員: 田野倉達弘 小池 渉 田中館宏橘 大場忠道 西山浩平 毛利尚彦
高橋恭平 鶴 和也 木村和也

正〔院割〕会員（2名） 中山貴隆 北村重浩

2. 今月の退会者および逝去者なし

3. 8月末日会員数

賛助：26 名誉：73 正会員：4038（正会員：3846 正（院割）会員：180
正（学部割）会員：12） 合計 4137（昨年比 -85）

<会計>

1. 税務署で、定款等を確認してもらった結果、地質学会は非営利型の一般社団法人であるとのことが認められた。収益事業に対しては税金がかかる（会員に対する雑誌の販売も含む）。
2. 昨年度に支出した2012年度国際地学オリンピック日本大会への協賛金については、同大会が震災等の影響で中止になったため、通常の日本地学オリンピックへの協賛金に振り替える手続きをした。
3. 国際地質学史委員会 INHIGE02011 に対し、共催団体として20万円の助成をした。

(2) 広報部会：広報委員会（坂口）

- ・部会・支部の連絡ツール、SNSの試運転中。

(3) 学術研究部会：行事委員会（星）

1) 水戸大会

- ・事前登録数（約800）および当日参加者数の見込みで、合同大会は1000名～1100名規模の予想
- ・見学旅行は世話人及び案内者の努力により、全コース実施が決定した。
- ・地質情報展会場で開催する「震災関連ポスター展示」は23件、「市民向けポスター展示説明会」は4件の発表予定。

2) 2014年大会について、鹿児島大で開催可という連絡が西日本支部長よりあった。

(4) 学術研究部会：国際交流委員会（石渡）

- ・2010/8～2011/8までの国際関係活動一覧
国際地質学史委員会 INHIGE02011 の開催、を追加する。

(5) 編集出版部会：地質学雑誌編集委員会（小嶋編集委員長）

1) 今月の編集状況（9月5日現在）。

- ・投稿論文総数45編〔総説2（和文・英文各1）、論説29（和文27、英文2）、ノート7（和文のみ）、

報告7（和文のみ）〕口絵4（和文のみ）

* 論説には5/31までに投稿された短報を含む

- ・査読中40編 受理済み24編（うち通常号9 特集号15）

2) スカラーワンへの移行のテストを行っている。

3) 地質学雑誌の早期公開は11月頃から可能（JOI DOIがつく）

4) 震災関連特集号の原稿執筆依頼を行った。

(6) 編集出版部会：アイランドアーク編集委員会（井龍編集委員長）

- ・編集状況の報告

(7) 企画出版委員会（山口）

「一家に一枚ポスター」に関して文科省から募集案内があり（昨年度は地球史年表で応募して不採択）、震災を受けて「地震と火山」関連での応募を検討したが、今回は準備の都合で応募を見送り、来年度の応募に向けて引き続き検討することとなった。

震災に関しての地質学的出版物(単行本を含む)を検討する。

(8) 社会貢献部会（藤林）

地学教育委員会か大会期間中に行われる予定。

(9) ジオパーク支援委員会（高木）

- ・本日9月5日に日本ジオパーク委員会が開催され、今年申請されていた世界ジオパーク候補地1件「隠岐ジオパーク」の国内推薦、および、日本ジオパーク候補地6件「男鹿半島・大潟、磐梯山、茨城県北、下仁田、秩父、白山手取川」が認定されました。

その結果、日本ジオパークは20地域となりました。

なお、今年世界ジオパークの審査を受けていた「室戸ジオパーク」は、ノルウェーで9月18日に審査結果が発表されます。

- ・地震火山サマースクールは来年度糸魚川の予定(藤林)

(10) オリンピック支援委員会

(11) 震災復興事業プラン検討WG（高木・向山）

- ・事業プラン応募件数 8件、現在の採択5件（うち標本レスキュー2件）
- ・9月1日 新規応募について検討中

(12) 連携事業委員会（渡部）

第1回の会合が行われた。来年度も新たな要請がある見込み。

(13) 各賞選考委員会

今年度の委員長は榊原正幸委員に決定

小藤賞は短報があるうちは残すことは前回の執行理事会で議論済み(対象論文は1年未満の期間)。それがわかるようなアナウンスの仕方を検討する。

(14) 地質災害委員会(委員長 斎藤)

- ・委員:支部委員> 川村信人(北), 越谷 信(東北), 本田尚正(東), 野沢竜二郎(中), 三田村宗樹(近), 榊原正幸(四), 奥村晃史(西)

専門部会>安藤伸(応用), 黒田登美雄(四紀), 木村克己(地域地質), 三浦大助(火山), 上砂正一(環境地質)

(連絡対象)支部長>竹下徹(北), 竹谷陽二郎(東北), 伊藤谷生(東), 原山智(中) 宮田隆夫(近), 白井朗(四), 宮本隆美(西)

- ・平成 23 年台風 12 号による紀伊半島における日本地質学会地質災害調査団(仮称)の参加者募集について

以上